



TOHOKU

EPO通信

[エポ]



東北環境パートナーシップオフィス



青森県で実施された Green Gift 地球元気プログラム「みんなのあおぞら水族館プロジェクト」

CONTENTS

- 特集
誰ひとり置き去りにしない福島を目指して
- ECO & 復興支援グッズ
- 東北6県 EPO トピックス

東北環境パートナーシップオフィス(EPO東北)とは

東北環境パートナーシップオフィス(略称:EPO東北)は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協働できるよう、地域の環境情報の発信と交流機会の提供を行い、活動の広がりと新たな取組創出のきっかけ作りを担います。たくさんの方がEPO東北をきっかけに出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さまのパートナーシップ作りを支援します。

誰ひとり置き去りにしない 福島を目指して

特定非営利活動法人しんせい とみなが みほ 富永 美保

しんせいの活動は、JDF被災地障がい者支援センターふくしま（2016年活動終了）の事業の1つとして「交流サロンしんせい」がスタートしました（2011年10月）。当時、福島では避難所が終了し、住民は仮設住宅等で新しい生活をスタートさせた時期でした。しんせいもサロンを中心に活動していましたが、参加者の中から「サロンに参加するのが苦しい」という声が聞こえるようになりました。1人で家にいるのも辛いけれど、もともとお喋りが苦手な方が毎日サロンでお喋りをしなければならないのも辛かったことでしょう。そこで、2013年からはしんせいはサロン活動を縮小し、1人ひとりが自分の役割を実感できる就労活動（仕事）をはじめることになりました。

まず、はじめたのは「つながりのかばん」づくりです。使用済みの封筒でカバンをつくりました。撥水効果を持たせるためにロウソクを表面に塗るのですが、全国の花嫁さんが結婚式で使ったロウソクなどをご支援くださいました。28という数字は「フタバ」と読みます。双葉郡から避難してきたみなさん



つながりのかばん

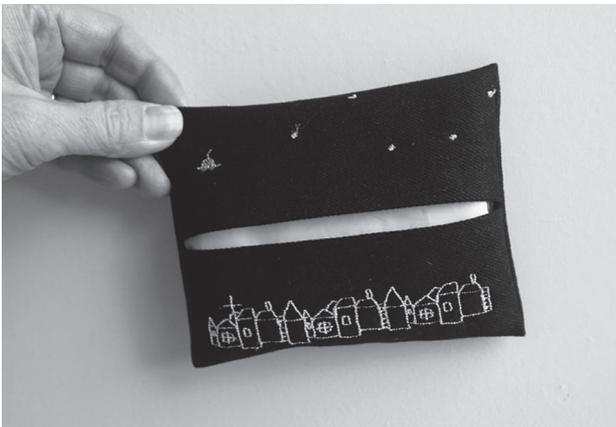
と一緒に立ち上げたしんせいは「28」という数字をととても大切にしています。



魔法のお菓子ぼるぼろん

2013年頃になると福島復興の勢いも増してきました。そのような中で、避難先で再開した福祉事業所は障がい者の仕事を見つけることにとっても苦勞していました。せっかく通ってきても仕事がなく、工賃を支払うことが難しい状況を何とかしようと12の福祉事業所が力を合わせ、たくさんの障がい者が関わる仕事をつくりがはじまりました。日清製粉グループからの技術支援を受けて生まれた「魔法のお菓子ぼるぼろん」は、箱を折る人、お菓子を作る人、お菓子を詰める人、営業する人、発送する人など、たくさんの障がい者が関わるお菓子です。「魔法のお菓子ぼるぼろん」はシナモン風味のスペインの祝い菓子で、たいへん口どけがよく、「ぼるぼろん♪ぼるぼろん♪」と3回唱えるまで口の中にお菓子が残っていたなら願いが叶うという楽しいお菓子です。10月から4月までの冬季限定のお菓子ではありますが、毎年秋の販売と同時に「待ってましたよ！」とご注文頂くお菓子になりました。

2015年、復興も加速する中、5つの小さな福祉事業所も手芸製品などのレベルアップを目指して「ミシンの学校プロジェクト」を立ち上げました。ミシンの学校プロジェクトはブラザー工業株式会社の支援を受け、これまで学ぶ機会がなかった障がい者が家庭用ミシンの使い方を学ぶ機会を積極的につくりました。また、手が不自由であっても思い通りに紙を切ることができるスキャンカッターや自分たちが描いた絵もデザインとして使うことができる刺繍ミシンなど、障がいの特性にあった機械の情報も幅広く知ることが出来るようになり、日々の仕事に多いに活かさすことが出来るようになりました。



ミシンの学校

現在、福島では帰還政策が押し進められ、故郷に帰った人の支援に注目が集まっています。しかしながら、帰っても通える福祉事業所がない、病院がないなど、様々な理由から故郷に帰ることが難しい障がい者は少なくありません。仮設住宅の終了後に移転した復興公営住宅等では、弱い立場の避難者の孤立が問題となっていますが、しんせいの利用者も例外ではありませんでした。そこで、しんせいでは

2017年から復興住宅等にお花を植える活動をスタートしました。お花のお手入れに伺ったり、集会所で行われるサロン活動に参加することで、住民のみなさんと接点が増え障がいに対する理解も進んでいると感じられます。また、しんせいの園芸活動をサポートする郡山市民によるボランティアと避難者の交流も自然に進んでいることも嬉しい成果といえます。

このように、避難者と共に歩んでいる東日本大震災・原発事故からの道のりは容易なものではありませんでした。しかしながら、素晴らしい出会いに恵まれ、これまでにない新しい試みが生まれるチャンスでもありました。国連が2030年までに達成すべき世界共通の目標として掲げるSDGs（Sustainable Development Goals 持続可能な17の開発目標）を知った時には、まさに私たちが歩んだ道のりはSDGsそのものであったと深く納得することができました。しんせいは震災後に立ち上がった小さなNPOですが、復興のフェーズにより目まぐるしく変わる課題を乗り越えるため、市民×企業×NGO/NPOをとのパートナーシップを組み合わせながら、ダイナミックに課題に挑戦してきました。いつしか、そのパートナーシップこそがしんせいの唯一無二の財産となりました。SDGsは世界のどこかで、誰かが取り組む特別なことではありません。福島の課題も、世界的な課題も実は根っこが一緒であり、地球の未来のため多くの人と力を合わせて乗り越えて行かねばならないと強く感じています。しんせいはこれからも障がい者の仕事で福島の課題を乗り越える挑戦を続けていきたいと思えます。



園芸活動

ECO&復興支援グッズ

環境再生活動の支援につながる、または復興支援につながるエコグッズ（マイバッグなど）

01. 【泊貝っこ】 福幸玉ストラップ

南三陸ホテル観洋が運営する「南三陸復興ストア」は震災後、地元を応援するために始めました。南三陸の魅力をより多くの人に知ってもらうため、美味しい物や頑張る人をご紹介します。

その中で1番の人气がこちら、復興への願いをこめて、一つ一つ丁寧に編みあげた手作りのストラップ。海に浮かぶ浮き球を模しています。

船乗りの方へは「沈まないお守り」としても大事にされています。

「浮き」玉で「運氣」も上昇♪

■問い合わせ先/南三陸復興ストア

宮城県本吉郡南三陸町黒崎99-17 南三陸ホテル観洋内

TEL : 0226-46-2442

FAX : 0226-46-6200

Email : shop@kanyo.co.jp

<https://store.shopping.yahoo.co.jp/minamisanriku-hukko/>



■価格 626円(税込)

02. 大漁旗のピアス piece of sea

大漁旗とは、船を新造した際に贈られる祝い旗です。このピアスは、大漁旗を細かいピース状にして組み合わせたアクリルピアスです。(イヤリングもあります)

制作のきっかけは、宮城県石巻市での災害支援ボランティアの活動中に、津波をかぶった大漁旗を見つけたことから始まりました。海の街の暮らしや人々の想いがつまったシンボルをピアスやブレスレットにして、世界中に発信しています。

■問い合わせ先/石巻元気商店

〒986-2251 宮城県牡鹿郡女川町旭が丘 2-7-11

TEL : 050-3556-8160

Email : info@localloop.jp

<https://store.shopping.yahoo.co.jp/otr-ishinomaki/107d05p076.html>



■価格 2,700円(税込)

03. がんばっぺし！巾着袋

イギリスのインテリアテキスタイル Clarke&Clarke やオリジナルデザイン生地「ウニ」、「ミナミサンリク」を使ってかわいい巾着袋を製造販売しています。

裏地付きのしっかりした作りで、御朱印帳をいれるのにちょうどいいサイズ。かばんの中の整理にも大活躍です。

ワックスコードの紐がアクセントになっています。

製作者の名前が入ったカード付。

あなたと南三陸町をつなぐ小さな布製品です。

■問い合わせ先/特定非営利活動法人南三陸ミシン工房

〒988-0474 宮城県本吉郡南三陸町歌津字田表 42-1

TEL : 0226-29-6528

Email : mail@mishinkoubou.org

<http://http://www.mishinkoubou.org/>



■価格 1,620円(税込)

青森
AOMORI

岩木山エコプロジェクト

岩木地区で、後を絶たない不法投棄者への怒りがきっかけで、活動が始まった

青森県岩木地区のエコ活動は、岩木山の遊歩道、農道を主体に活動してきました。2018年で12年目となります。

現状、大型の不法投棄物は減少傾向にあります。まだ不法投棄は後を絶ちません。活動を続けることで、岩木山の自然を大切に思う人が増えていくことを期待しています。それが、岩木山の自然保護、環境保全に繋がると考えるからです。

ただ、活動を続けるにはいろいろな問題があります。まずは、収集した投棄物の処分料です。日常的なゴミは低額ですが、家電のリサイクル料、ベッドなど大型家具は運搬も大変ですが



水分を吸い腐食しています。この水浸しのゴミは、処分する業者と何度も話し合いをして、やっと引き取ってもらえるようになりました。

年2回の収集した投棄物の処分料は、弘前市の補助金受け、岩木山観光協会の自己資金を合わせて支払っています。しかし、参加者からの意見には

「人が捨てたものを苦勞して片付け、有料で処分するという行為は馬鹿げている」と腹立たしさを超えて、モチベーションを保つことも大変なやりきれない気持ち

処分料が高額です。

また、長い年数、地中に埋まっていた布や紙類は、

なっていることも事実です。

岩木地区は2年前、「日本で最も美しい村」という称号をいただきました。これを機に町会連合会も参加意向を示しているため、この動きから岩木地区全体にエコ意識が広がることを期待しています。



岩木山観光協会

<http://www.iwakisan.com>

■〒036-1343 青森県弘前市大字百沢字裾野124 ■TEL：0172-83-3000

■FAX：0172-83-3001 ■Email：1625@iwakisan.com

岩手
IWATE

千年つながるシバ草原を未来へつなごう！

自然と馬の放牧がつくりあげた安比高原「半自然草原」「ブナの二次林」の豊かな自然環境で、人と人、文化と文化が交流し合う学びの場を提供します。



■地域住民の自立

安比高原は大凡千年前の奈良・平安時代から馬の放牧が行われシバ草原として続いてきました。昭和60年ごろ放牧が中断されると、植生が大きく変化し「シバ草原が消えてしまう」危機感を抱いた地域住民・森林管理署・市とで草木の刈払いや野焼きなどを実施してきました。平成24年有志により「安比高原ふるさと倶楽部」を設立し、シバ草原再生活動と、人と人の交流による持続可能な環境保全を目標に活動を行っています。

■地域の里山文化を学ぶ

平成26年から「馬によるシバ草原再生プロジェクト」を開始。南部地方の文化である馬の放牧を頭数と期間とも安定させるため、岩手の馬事文化活性化に取り組む若者たちと交流をしながら「はたらく馬」として5月間5~6頭程の放牧システムが完成。4年経った今、シバ草原とレンゲツツジの原風景が甦り、地元小学生の森林学習や幼児のふれあい、学校授業や自然愛好者等へ、自然と馬にふれ



あう体験受入れながら日々学びと交流を創造しています。

■自然にふれて学べる半自然草原へ

馬の放牧で「半自然草原はなぜできるか？」をテーマに笹やスキを刈り取り馬に食べてもらうプログラムを始めていますが、目標は先人から受け継いだ美しいシバ草原の中で、人が交流や学ぶことで安比高原を「ふるさと」と思い、未来へつなげることです。

安比高原ふるさと倶楽部

<https://www.facebook.com/appifurusato/>

■〒028-73-95 岩手県八幡平市安比高原ホテル安比グランド内 ■TEL：0195-73-6228

■FAX：0195-73-6226 ■Email：taiken@ihr.co.jp

宮城 MIYAGI

三陸の自然の恵みと脅威を体感！

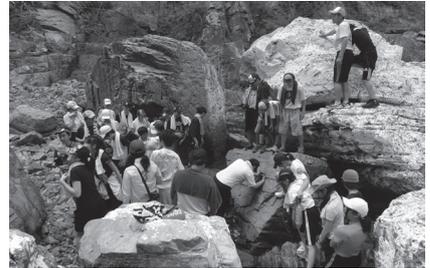
“海と生きる” 気仙沼唐桑半島の自然と文化、津波の記憶を訪れる方と次世代に伝えたい

唐桑半島ビジターセンターは三陸復興国立公園・気仙沼市唐桑半島の美しい自然と、ここに暮らす人々とのかかわりを、写真、映像、模型などでわかりやすく展示する、宮城県が昭和59年（1984年）7月に設置した施設です。特徴として、三陸地域と関係の深い「津波」に関する展示が充実していること、日本で初めての「津波体験館」が併設されていることがあげられます。



津波体験館は、映像・音・振動・風によって体全体で津波の疑似体験ができる施設です。東日本大震災以前は、明治29年の「明治の三陸大津波」、昭和8年の「昭和の三陸津波」、昭和35年の「チリ地震」など、かつてこの地を襲った津波をストーリー化し、過去の津波被害の記憶の風化を防ぐとともに、津波のメカニズムを知り、今後起こりうる津波に備えることの大切さを伝える内容でした。平成25年に映像をリニューアルし、東日本大震災での実際の津波の様子や地域の方々のインタビュー映像などが加えられています。

また、環境省が整備を進めているロングトレイル、「みちのく潮風トレイル」のインフォメーション施設として、気仙沼ルートの情報提供やトレイルガイドの



受付なども行っています。ビジターセンター周辺では、半島の先端を一周できる「御崎岬コース」や、東日本大震災で発生した津波によって打ち上げられた「神の倉の津波石」を見学できる「津波石コース」などのコースも設定しており、トレイルの一部を気軽に体験することができます。

唐桑半島ビジターセンター
<http://www.karakuwa.com>

〒988-0554 宮城県気仙沼市唐桑町崎浜4-3 ■TEL：0226-32-3029
■FAX：0226-32-3029 ■Email：office2@karakuwa.com

秋田 AKITA

宝の森林(やま)に無限の可能性～山菜や薪の活用に地域で取り組む

自治会組織（うめないじゅうらく梅内聚落）が主導し、共同で楽しく、元気が出る活動へ

①活動組織の発足

手入れが行き届き、光がさしこむ杉林は山菜の宝庫です。平成24年3月、男性軍が「二ツ井宝の森林（やま）プロジェクト」として木の駅（間伐材のチップ活用等）を開始し、28年3月に女性軍を中心に「梅内山菜倶楽部」を発足させ、都会の方々に自然の味をお届けしています。収入としては微々たるものですが、「おいしかった」の一言に元気を貰っております。集落内には立派な植林記念碑が建立され、森林（やま）に対する思い入れは昔から強く、今でも林道などの工事が毎年行われており（聚落や個人の土地は無償提供）、こうしたインフラ整備は今後の材の搬出や山の手入れに大いに威力を発揮するものと



と期待しています。

②薪としての活用

地区の戸数は約160戸、薪ストーブの設置率は高く、毎年聚落の雑木林から薪を採る活動を、「梅内薪づくり倶楽部」で行っている。37名程の会員が抽選で区画を決め、11月初めから雪が本格的に降り始める12月中旬まで、列状間伐により計画的な更新を行って、資源の保護に努めております。またプロジェクトでは、27年から杉材を薪として販売しています。「薪は雑木」の神話が根強い地域であります。高齢者を中心に、石油ストーブに満足できない方々に需要が増



えています。杉林の手入れと化石燃料削減の一石二鳥で、今後の活動に弾みをつけたいと考えています。

③当地域で開催の新びと祭へ参加を

本年11月3、4日に当地域を会場に、「第5回みちのく薪びと祭と祭in秋田うめない」が開催予定です。薪の乾燥等技術的な問題や薪販売の業としての課題を出し合い、またストーブ愛好者同士の交流を図りたいと計画しております。当日は薪区画の抽選や伐採風景を見ていただきたいと、地元の受け入れ態勢を整えております。多くの方々との交流ができれば幸いです。



特定非営利活動法人白神ネイチャー協会
<http://www.shirakami.or.jp/~asna/index.html>

〒018-2632 秋田県山本郡八峰町八森字三十釜133-1 ■TEL：0185-70-4211
■FAX：0185-70-4214 ■Email：asna@shirakami.or.jp

青森
AOMORI

岩木山エコプロジェクト

岩木地区で、後を絶たない不法投棄者への怒りがきっかけで、活動が始まった

青森県岩木地区のエコ活動は、岩木山の遊歩道、農道を主体に活動しています。2018年で12年目となります。

現状、大型の不法投棄物は減少傾向にあります。活動を続けることで、岩木山の自然を大切に思う人が増えていくことを期待しています。それが、岩木山の自然保護、環境保全に繋がると考えるからです。

ただ、活動を続けるにはいろいろな問題があります。まずは、収集した投棄物の処分料です。日常的なゴミは低額ですが、家電のリサイクル料、ベッドなど大型家具は運搬も大変ですが



水分を吸い腐食しています。この水浸しのゴミは、処分する業者と何度も話し合いをして、やっと引き取ってもらえるようになりました。

年2回の収集した投棄物の処分料は、弘前市の補助金を受け、岩木山観光協会の自己資金を合わせて支払っています。しかし、参加者からの意見には

「人が捨てたものを苦勞して片付け、有料で処分するという行為は馬鹿げている」と腹立たしさを超えて、モチベーションを保つことも大変で、やりきれない気持

ちになっていくことも事実です。

また、長い年数、地中に埋まっていた布や紙類は、

岩木地区は2年前、「日本で最も美しい村」という称号をいただきました。これを機に町会連合会も参加意向を示しているの、この動きから岩木地区全体にエコ意識を広げる考えです。



岩木山観光協会

<http://www.iwakisan.com>

■〒036-1343 青森県弘前市大字百沢字裾野124 ■TEL：0172-83-3000

■FAX：0172-83-3001 ■Email：1625@iwakisan.com

岩手
IWATE

千年つながるシバ草原を未来へつなごう！

自然と馬の放牧がつくりあげた安比高原「半自然草原」「ブナの二次林」の豊かな自然環境で、人と人、文化と文化が交流し合う学びの場を提供します。



■地域住民の自立

安比高原は大凡千年前の奈良・平安時代から馬の放牧が行われシバ草原として続いてきました。昭和60年ごろ放牧が中断されると、植生が大きく変化し「シバ草原が消えてしまう」危機感を抱いた地域住民・森林管理署・市とで草木の刈払いや野焼きなどを実施してきました。平成24年有志により「安比高原ふるさと倶楽部」を設立し、シバ草原再生活動と、人と人の交流による持続可能な環境保全を目標に活動を行っています。

■地域の里山文化を学ぶ

平成26年から「馬によるシバ草原再生プロジェクト」を開始。南部地方の文化である馬の放牧を頭数と期間とも安定させるため、岩手の馬事文化活性化に取り組む若者たちと交流をしながら「はたらく馬」として5月間5~6頭程の放牧システムが完成。4年経った今、シバ草原とレンゲツツジの原風景が甦り、地元小学生の森林学習や幼児のふれあい、学校授業や自然愛好者等へ、自然と馬にふれ



あう体験受入れながら日々学びと交流を創造しています。

■自然にふれて学べる半自然草原へ

馬の放牧で「半自然草原はなぜできるか？」をテーマに笹やススキを刈り取り馬に食べてもらうプログラムを始めていますが、目標は先人から受け継いだ美しいシバ草原の中で、人が交流や学ぶことで安比高原を「ふるさと」と思い、未来へつなげることです。

安比高原ふるさと倶楽部

<https://www.facebook.com/appifurusato/>

■〒028-73-95 岩手県八幡平市安比高原ホテル安比グランド内 ■TEL：0195-73-6228

■FAX：0195-73-6226 ■Email：taiken@ihr.co.jp

宮城 MIYAGI

三陸の自然の恵みと脅威を体感！

“海と生きる” 気仙沼唐桑半島の自然と文化、津波の記憶を訪れる方と次世代に伝えたい

唐桑半島ビジターセンターは三陸復興国立公園・気仙沼市唐桑半島の美しい自然と、ここに暮らす人々とのかかわりを、写真、映像、模型などでわかりやすく展示する、宮城県が昭和59年（1984年）7月に設置した施設です。特徴として、三陸地域と関係の深い「津波」に関する展示が充実していること、日本で初めての「津波体験館」が併設されていることがあげられます。



津波体験館

津波体験館は、映像・音・振動・風によって体全体で津波の疑似体験ができる施設です。東日本大震災以前は、明治29年の「明治三陸大津波」、昭和8年の「昭和三陸津波」、昭和35年の「チリ地震津波」など、かつてこの地を襲った津波をストーリー化し、過去の津波被害の記憶の風化を防ぐとともに、津波のメカニズムを知り、今後起こりうる災害に備えることの大切さを伝える内容でした。平成25年に映像をリニューアルし、東日本大震災での実際の津波の様子や地域の方々のインタビュー映像などが加えられています。

また、環境省が整備を進めているロングトレイル、「みちのく潮風トレイル」のインフォメーション施設として、気仙沼ルートの情報提供やトレイルガイドの



神の倉の津波石

受付なども行っています。ビジターセンター周辺では、半島の先端を一周できる「御崎岬コース」や、東日本大震災で発生した津波によって打ち上げられた「神の倉の津波石」を見学できる「津波石コース」などのコースも設定しており、トレイルの一部を気軽に体験することができます。

唐桑半島ビジターセンター&津波体験館
<http://www.karakuwa.com>

〒988-0554 宮城県気仙沼市唐桑町崎浜4-3 ■TEL：0226-32-3029 ■火曜休館
■FAX：0226-32-3029 ■Email：office2@karakuwa.com

秋田 AKITA

宝の森林(やま)に無限の可能性～山菜や薪の活用に地域で取り組む

自治会組織（梅内聚落）が主導し、共同で楽しく、元気が出る活動へ

①活動組織の発足

手入れが行き届き、光がさしこむ杉林は山菜の宝庫です。平成24年3月、男性軍が「ニツ井宝の森林（やま）プロジェクト」として木の駅（間伐材のチップ活用等）を開始し、28年3月に女性軍を中心に「梅内山菜倶楽部」を発足させ、都会の方々に自然の味をお届けしています。収入としては微々たるものですが、「おいしかった」の一言に元気を貰っております。集落内には立派な植林記念碑が建立され、森林（やま）に対する思い入れは昔から強く、今でも林道などの工事が毎年行われており（聚落や個人の土地は無償提供）、こうしたインフラ整備は今後の材の搬出や山の手入れに大いに威力を発揮するものと



と期待しています。

②薪としての活用

地区の戸数は約160戸、薪ストーブの設置率は高く、毎年聚落の雑木林から薪を採る活動を、「梅内薪づくり倶楽部」で行っている。37名程の会員が抽選で区画を決め、11月初めから雪が本格的に降り始める12月中旬まで、列状間伐により計画的な更新を行って、資源の保護に努めております。またプロジェクトでは、27年から杉材を薪として販売しています。「薪は雑木」の神話が根強い地域であります。高齢者を中心に、石油ストーブに満足できない方々に需要が増



えています。杉林の手入れと化石燃料削減の一石二鳥で、今後の活動に弾みをつけたいと考えています。

③当地域で開催の薪びと祭りへ参加を

本年11月3、4日に当地域を会場に、「第5回みちのく薪びと祭りin秋田梅内」が開催予定です。薪の乾燥等技術的な問題や薪販売の業としての課題を出し合い、またストーブ愛好者同士の交流を図りたいと計画しております。当日は薪区画の抽選や伐採風景を見ていただきたいと、地元の受け入れ態勢を整えております。多くの方々との交流ができれば幸いです。



ニツ井宝の森林プロジェクト

〒016-0102 秋田県能代市字一本木86-6 ■TEL：090-7077-6492（携帯）
■FAX：0185-58-2666 ■Email：t-funa@ipone.ne.jp

山形

YAMAGATA

人と湿地の新しいかわりによる休耕田の湿地再生の取り組み！

～人のかかわりがないと消滅してしまう自然環境「湿地」。
人と自然の関係の再構築が導く湿地再生の道！～

当館の主なフィールドである都沢湿地は、昔は人の腰までぬかるむ深い田んぼでした。しかし、減反政策などの影響もあり、1999年には全域が休耕田となりました。その後、ため池からの滲出水によって低湿地が成立したことから、多くの関係者が協議し、この場所を維持管理しながら低湿地として守っていくことを決めました。しかし、湿地をそのままにしておくと、①すぐに一面が草で覆われ陸地化すること、②ウシガエルやアメリカザリガニなどの外来生物による在来動植物の捕食などの課題がでてきました。



ショベルカーによる湿地再生

【課題解決①「土の中に眠る種子を目覚めさせよ！」】

そこで、私たちは陸地化防止のために、ショベルカーを使って湿地の土をかき混ぜ、湿地環境を維持する試みを始めました。この方法により、土の中に眠る種子を目覚めさせ、昔湿地に生えていたジュンサイなどの水生植物を復活させることができたのです。

【課題解決②「湿地の厄介者を再び食に活用!!」】

毎年、外来生物であるウシガエル約1,000個体、アメリカザリガニ13,000個体をアナゴ籠を使って捕獲し、数の変化や食性から生態系への影響を調べています。そして、本来の導入目的であった食として再び活用するために、鶴岡市内の飲食店に食材として提供をはじめました。市民が食べることで保全に繋がる新しい試みです。

当館の湿地

再生活動は、本来、洪水などの自然の力で頻りに壊され維持されてきた湿地環境を人が手を加えることで維持する新たな取り組みです。ぜひ、一緒に活動しましょう。



外来生物料理

鶴岡市自然学習交流館ほとりあ
<http://www.hotoria-tsuruoka.jp/>

TEL: 0235-33-8693

FAX: 02355-335-8694 Email: info@hotoria-tsuruoka.jp

福島

FUKUSHIMA

地域に必要とされる自然エネルギーを目指す。

人口1700人の過疎高齢化の中山間地域、しかし環境や資源は豊かで恵まれている。
自立した暮らしを目指すには最適な土地。

私たちは身の丈に合った活動を進めている、程々に資金を集め、時には助成金などを使っている。会が立ち上がって、約5年が経過するが実際に売電するような発電所を造ったかという、まだである。しかし、目標に掲げています。地域に必要とされる自然エネルギーと考えたときに、何が大切かと考えたら、住民にエネルギーについて知ってもらうことが



H29 子どもたちの柳津西山地熱発電所見学



薪ストーブの製作展示会

第一だと結論が出た。地元の小学生と一緒に、地域の発電所の見学に行ったり、身近な資材でつくる薪ストーブの製作会を実施したりと、重点的に教育や啓発活動に力を注いでいます。その他に、集落にある側溝を利用して水車を動かすことや、河川の水量測定など定期的に活動をしています。

専門家がない中で、発電事業を目指すということは大変難しく進展しているのかわからなくなることがあります。ですが、一步一步進んでいることは確かだと思っています。今年の夏も、小学生とダム施設を見学し、ダムカレーを作る予定です。身の丈の活動が、少しずつ伸びていくことを目指していきたいと思います。



手作り木製水車の稼働実験

NPO法人会津しま自然エネルギー研究会
<https://www.amre.jp/>

TEL: 969-7516 福島県大沼郡三島町大登寺沢1051-2

Email: npo.amre@gamil.com

● Web-Siteのご案内

- ◆ お役立ち情報：環境助成金情報、エコの日一覧
- ◆ 随時更新：お知らせ、活動報告、日記

お知らせページでは、環境省や東北6県のイベント・募集情報を告知しています。スタッフによるつれづれ日記、被災地や出張先のレポートが人気です！

● EPO東北オフィス利用案内

◆ 各種パンフレットやイベントチラシの設置

環境イベントや助成金等の募集チラシ、環境にまつわるパンフレットを設置しております。自由に閲覧いただけますのでお気軽にお立ち寄りください。また、チラシ等設置をご希望の方は持参または郵送でお寄せください。

◆ ミーティングルームのご案内

環境活動、震災復興支援活動のミーティングや小規模セミナーにご利用いただけます。ご希望の方は電話・メール等で事務局までご相談ください。

- 開館：月～金（祝日を除く）
- 利用時間：10:00～18:00
- 利用人数：12名まで

● EPO東北のパートナーシップ団体

EPO東北は各県で環境活動を進める団体の協力を得て運営しています。

青森県環境パートナーシップセンター	http://www.eco-aomori.jp/
ECO リパブリック白神	http://shirakamifund.jp/
環境パートナーシップいわて	http://www.iwate-eco.jp/
環境あきた県民フォーラム	http://www.eco-akita.org/index.html
あきた地球環境会議	http://www.cееakita.org/
環境ネットやまがた	http://eny.jp/
うつくしまNPOネットワーク	http://www.utsukushima-npo.jp/
せんだい・みやぎNPOセンター	http://www.minmin.org/
環境会議所東北	http://kk-tohoku.or.jp/
仙台広域圏ESD・RCE	http://rce.miyakyo-u.ac.jp/
環境パートナーシップ会議	http://www.epc.or.jp/

EPO東北は東北地方環境事務所（環境省）と公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）が協働して運営しています。



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office TOHOKU

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎1F
TEL 022-290-7179 FAX 022-290-7181
E-mail: info@epo-tohoku.jp URL: <http://www.epo-tohoku.jp/>

勤務時間：月曜～金曜日【9:30～18:00】
閉館日：土日祝日・お盆・年末年始

発行日：2018年8月



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

メールマガジン登録者募集中！

発行頻度：第2週と第4週毎月2回

登録料：無料

内容：助成金・イベント情報、
EPO東北の活動情報など
環境にまつわるお知らせ

登録方法：EPO東北のウェブサイトより



環境イベントの告知を行います！

催事情報をEPO東北のウェブサイト、メールマガジンなどでご紹介させていただきます。また、チラシを持参または郵送いただいた場合は、オフィス内に設置いたします。環境イベントを企画している皆さま、ぜひ事務局まで情報をお寄せください。